

# 柑橋作経営の一考察

(熊本県三角町柑橋作経営事例について)

斉藤中也・吉田武夫・川越義夫  
(九州農業試験場)

SAITO, C., YOSHIDA, T., KAWAGOE, Y.  
A Study of Mandarin Orange Farming. (On some mandarin orange farms in Misumi-machi, Kumamoto Pref.)

三角町は温暖で果樹栽培に適し、古くから一部の富農層等で柑橋栽培が行なわれて来た。最近の状況に応じて柑橋の作付が急激に増加しつつあるが、町全体で約 700 ha の栽培が可能と見込まれ、柑橋作による経営発展が進められている。その展開には技術、経営の両面に多くの問題があるが、本研究では個別柑橋作経営の事例を対象に今後の経営発展上の主要な技術的問題並びに労働利用について考察を試みた。

事例経営は第 1 表に示す耕地をもち柑橋植栽を行い

第 1 表 経営耕地面積及び果樹の種類 (面積単位: a)

農家番号	田	畑	果樹園	耕地計	果樹の種類								
					早生温州	普通温州	幼木	成木	甘夏柑	ブドウ	梨	計	
No. 5	—	—	55	55	15 27%	25 67	12	—	—	—	—	3 6	55 100
No. 2	25	5	123.5	153.5	6 5%	50 47.5	12 79	4	3	16	13	—	123.5 100

柑橋専業経営を旨としているが、柑橋園は南面した緩傾斜地に母屋に近くまとまっていて防風林も設置されており、比較的良い条件にある。しかし土壌は酸度が高く、成木は密植であり、また園内の農道が未整備で作業能率化の妨げとなっている。特に柑橋生産を左右する土壌管理では成・幼木園いづれも敷草・敷葉を実施している。深耕は、成木園では密植のため実施困難となつている。幼木園では深耕は概ねなされているが、投入有機質の材料不足の傾向がみられると共に成・幼木共に敷草がなお充分でない。また夏季に雨量が少なく旱魃時に灌水すれば効果は期待されるのであるが、防除用水以上の水確保は困難であることから灌水は殆ど行われず、総じて土壌管理は徹底を欠いている。これらの土壌管理作業は第 2 表のようにながりの労力を要するが、概して農閑期の労働を利用するため季節的制約なしに出来るから、問題は投入有機質材料の不足と旱害であり、灌漑水不足を充分な敷草で補うことを考慮して、草生栽培又は敷草取得の工夫が必要である。

剪定は概ね妥当な程度で行なわれ摘果も行なつているので、樹勢の維持と隔年結果の防止はほぼその効果が認められる。この作業も表に明かなようにながりの

第 2 表 柑橋種類別作業労働人数 (農家No. 2)

作業種類	普通温州		早生温州		総労働力	自家労働力割合	雇傭労働力割合
	労働力	計	労働力	計			
土管環境	敷草灌水	8.0	10.1	18.1	0.8	—	—
	除草	—	—	—	—	—	—
施肥	石灰散布	3.8	5.1	8.9	—	—	—
	肥	18.5	24.7	43.2	0.8	1.7	2.5
摘果	剪定	51.8	14.5	66.3	6.4	—	6.4
	整枝	12.9	18.0	30.9	1.3	1.4	2.7
收穫	摘採	112.4	—	112.4	17.8	9.0	26.8
	出荷	—	—	—	—	—	—
苗木	苗木	—	8.0	8.0	—	—	8.0
	計	236.2	115.5	551.7	28.7	14.0	42.7
10a 当り労働力	50.0	23.0	—	—	47.8	23.3	—

註：普通温州 (成木...25年生以上 147本、  
幼木...7年生以下及び苗木 355本、  
早生温州 成木...25年以上 30本。

労働量となる。事例農家以外で一般には摘果があまり実施されていないのは、労力に因るよりも主に収量減を惜むことによるものである。このことはかえつて隔年結果の要因になつている。摘果の問題は収量の安定と摘採の省力化とも結びつくから、樹令・樹勢・土地条件を検討して収量安定と摘採の能率化の上から適切に実施する必要がある。施肥及び防除作業は春・夏・秋にかけて全園に対し綿密に行なわれ、指導技術に近い水準で実施されているが、問題は防除における豊富な水確保、薬剤の節約、地区一斉防除、作業の能率化の点からなお問題が残されており、それらの点について共同防除効果も考慮されて宜い。以上の主要作業は摘採作業を含めて、これらの経営事例では他部門の作業と労働の競合なしに行なわれ、また摘採以外は自家労力で賄っている。しかし摘採は時期の制約及びその作業の性質から最も多くの労働力を要し、また現状の面積規模でも雇傭労働力に依存している。摘採能率は 1 日 1 人 180~260 kg 程度であり、摘採時期の制約もあるので、この労働調達の如何が柑橋作の規模を左右する。最近、雇傭労働力の質及びその確保が深刻な問題となりつつある情勢から見て、柑橋園農道の整備、栽植密度、樹の仕立方などによる摘採の省力化、品種の組合せによる労働配分の改善が進められるべきである。